

## 第2回 インパクト・レポート

- 1 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）
  - ・本分科会主催の公開シンポジウムを開催（令和元年10月27日）。「生活によりそう 家政学—衣生活を支える被服学における資格士教育の位置づけ—」
  - ・生活科学系コンソーシアム（日本学術会議健康・生活科学委員会生活科学(家政学)分科会）と、（一社）日本家政学会をはじめとする関連学協会(19団体)との連携を目的として平成19年に設立)主催の第9回シンポジウム（令和2年12月26日，オンライン）を開催。「前期（第24期）日本学術会議から発出した生活科学関連の3つの提言について」を実施。
  - ・衣料管理士養成に関わる関係機関に提言を送付して周知を図った。送付先は、文部科学省、経済産業省、消費者庁、内閣府など関係各府省及び衣料管理士資格を認定する（一社）日本衣料管理協会と1級衣料管理士資格養成を行う4年制の全大学13校。
  
- 2 社会に対するインパクト
  - (1) 政策への反映
    - ・無
  
  - (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応
    - (a) 学協会
      - ・提言に掲げた課題が衣料管理士（TA）資格の認定機関である（一社）日本衣料管理協会においても検討され、協会のHPの一部に反映された。
      - ・2022年度から1級衣料管理士の上位資格として、「衣料管理士専修」が新設され、認定を行う（一社）日本衣料管理協会から衣料管理士養成校に通知された。東京家政大学、大妻女子大学、椙山女学園大学等で対応が始まっている。
  
    - (b) 研究教育機関
      - ・衣料管理士資格に関係する（一社）日本衣料管理協会及び1級衣料管理士を養成する4年制の全大学に提言を送付して意見を求めた。資格認定機関からは、より良い資格とするために養成校のアンケート結果を活用したいこと、多くの養成校からは、提言の内容に賛同するという声を得ることができた。
  
    - (c) 市民
      - ・無
  
- 3 メディア
  - ・無
  
- 4 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してくだ

さい。

・無

## 5 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

### (b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

提言作成に際し、衣料管理士を養成する4年制の全大学の協力を得て郵送方式によるアンケート調査を行い、課題を抽出した。次に、シンポジウムを開催し、課題解決のための対策を検討した。同時に、資格認定機関や経済産業省と消費者庁からも意見を聴取した。このような経過を踏まえて表出した提言により、繊維製品が関係する地球環境の保全や生活の安心・安全・快適化のためにも衣料管理士資格者の役割は今後益々有用であることが確認された。さらに、衣料管理士の資格教育の基盤である被服学分野の人材育成が縮小しつつあるという現状打開のためにも、資格認定機関においては、資格の認知度を高めること、大学においては、被服科学分野の人材育成の強化を積極的に進めることが喫緊の課題として共有された。繊維製品の品質管理に関する資格養成が始まってから50年が経過する現在、資格認定機関と養成大学は、関係する企業の協力を得ながら、生活者視点による地球環境の保全や生活の安心・安全・快適化を見据えた更なる取り組みが急務である。

インパクト・レポート作成責任者

健康・生活科学委員会家政学分科会第25期委員長 杉山久仁子

提出日 令和5年10月1日